
Mounting & Maintenance

取付けおよびメンテナンス

Oversize Pulley Wheel System
for Shimano DA 9100 & Ultegra 8000



CERAMICSPEED

Maintenance

メンテナンスについて

Oversizes Pulley Wheel (OSPW) のメンテナンスを適宜行いましょう。頻度は走行される地域の気候により変わります。

摩耗したチェーンをそのまま使用すると、プリーホイールも著しく摩耗するため、

チェーンが摩耗する前に交換してください。OSPW

の点検は、雨天時の走行、洗車、またはチェーンの潤滑後に行いましょう。通常のメンテナンスでは、潤滑部 (3ページを参照) にオイルを一滴垂らします。OSPWを水平に保ち、オイルをプリー内のベアリングに届かせましょう。



OSPWにはCeramicSpeed Oilの使用を推奨します。このオイルは世界各地のCeramicSpeed取扱店またはウェブショップにてご購入いただけます。CeramicSpeed.comのサポートページで、メンテナンスの紹介ビデオをご覧ください。

OSPWはバイク用トラベルバッグに適合しないため、遠征時にはリアディレーラーごとに取り外して持ち運んでください。

Extended Maintenance

拡張メンテナンスについて

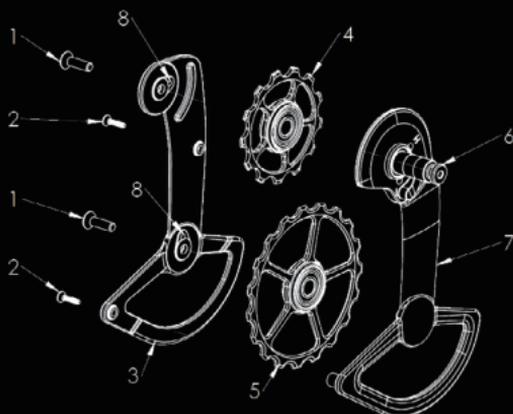
拡張メンテナンスを半年ごとに行いましょう。その際は、OSPWと左右両側のシールをディレーラーケースから取り外し、ディグリーザーで全てのパーツを洗浄します。その後、パーツを乾燥させ、CeramicSpeedのベアリング球にオイルを2滴垂らし、OSPWとシールを元の位置に取り付けます。ケースプレートを取り外す際は、プリーホイールボルト (3ページ参照) を2.5mmの六角レンチで、タワーボルトを2mmの六角レンチで緩めます。各ボルトを取り付ける際は、プリーホイールボルトを1Nmで、タワーボルトを0.3Nmのトルクで締め付けます。その際はトルクレンチをお使いください。雨天時やマッドコンディションを走行され場合は、拡張メンテナンスをより頻繁に行い、All Round Greaseで各部を確実に保護しましょう。

Mounting the CeramicSpeed Oversized Pulley Wheel System for Shimano DA 9100 & Ultegra 8000 with integrated stop tower

展開図

Pos. 名称

- | | |
|---|--------------|
| 1 | プーリーホイールボルト |
| 2 | タワーボルト |
| 3 | バックケージプレート |
| 4 | アッパープーリー |
| 5 | ロープーリー |
| 6 | ケージピボット |
| 7 | フロントケージプレート |
| 8 | プーリーホイールの潤滑部 |



必要なツール

CeramicSpeed Oversized Pulley Wheel DA 9100およびUltegra 8000の取付けには以下のツールを使います。

- A チェーンツール
- B T10 Torx® レンチ
- C ラスドライバー no.2



A



B

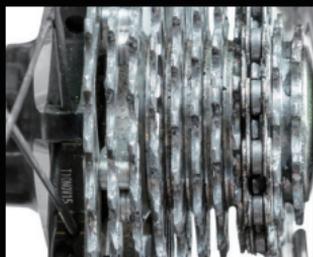


C

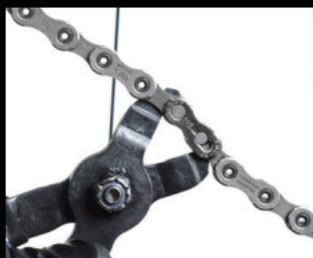
Mounting Manual

取り付け方法

最高の走行性能を発揮させるべく、OSPW (Shimano DA 9100およびUltegra 8000用、ストップタワー内蔵) を以下の手順に正しく従って取り付けましょう。



1. バイクをスタンドに固定し、リアホイールを取り外します。



2. チェーンツールでチェーンを外します。
OSPWを取り付ける場合には、新品の長いチェーンが必要です。使用済みのチェーンにリンクを追加することは推奨しません。



3. ディレラーをケーブル接続部の上側まで移動させます。片手でフロントケーシングプレート (A) を下向きに回し、プラスのプリーケーシングストップスクリュー (B) を外します。プリーケーシングのスプリングのテンションを解放させます。このとき、ディレラーケーシングの位置が上下逆さまになっているはずです (C)。



4. ディレラー本体裏側にある黒色の取付用 T10 ボルトを T10 Torx レンチで外します。ボルト全長の半分までねじが切られています。ボルトを 1cm ほど緩め、ねじがかからなくなったら、指でボルトを引き抜きます。



5. プーリーケーシングとスプリング一式を取り出します。プーリースプリングとプラスチックスペーサーを落とさないよう注意しましょう。



6. ケーシングからスプリングとプラスチックスペーサーを取り外します。スプリング端部のフックはプーリーケーシングに引っ掛かっています。スプリングとスペーサーはOSPWの取付け後も使用しますので、保管してください。



7. OSPWを開封します。



8. 元のスプリングとプラスチックスペーサーを、ケーシングから取り外したときの要領でOSPWの取付用ポストに合わせます。スプリングのフック側とスペーサーの平面側をOSPWに向けます。



9. OSPWでは、H(ハイ)からL(ロー)まで4種類のスプリングテンションを選べます。Lにセットすると、チェーンのテンションとスプリングの抵抗が減り、変速性能もやや落ちます。Hにセットすると、最高の変速性能を得られませんが、他のセッティングよりもスプリングの抵抗がやや増えます。



10. Lの隣にある穴(2番目に低いテンション位置)を選び、フックを引っ掛けてスプリングを取り付けます。

このとき、強く押し込む必要があるかもしれません。プラスチックスペーサーは、ディレラー本体の裏側に合わせるまで、スプリングの上に乗せておきます。



11. ディレラー本体を回し、OSPWケージがバイク前方を向いた状態で、OSPWの取付用ポストをディレラー本体裏側に合わせます。スプリングとプラスチックスペーサーをディレラー本体の溝に合わせ、ケージをディレラーの奥まで押し込みます。

OSPWケージが滑らかに回転し、スプリングが正しい位置にあることを確かめます。



12. OSPWケージをディレラー本体に押し付けながら、ケージの突起がディレラー本体の突起を通り過ぎてから噛み合うまで、反時計方向(バイクの上側、後ろ側、下側の順)に回します。



13. 手順3で取り外したT10ボルトを付け直し、ケージを固定します。
締付けトルクは1Nmです。



14. これでOSPWの取付けが完了しました。
ディレラーをカセットのトップギアまで変速し、新しいチェーンを取り付けます。
53T以上のチェーンリングにはリンクが114個のチェーンを、52T以下のチェーンリングにはリンクが112個のチェーンを使用します。カセットのサイズやチェーンステー長により、さらなる調整が必要になる場合もあります。



- 15.** リアホイールを取り付け、ディレーラーのトップとロー側のリミット調整を行います。
必要に応じて、リミットボルト、ケーブルテンション、Di2トリムで調整を行い、カセットの各ギアとプーリーホイールの位置を合わせます。



- 16.** アップパープーリーとカセットのトップギアとの間隔を5mm以下に調整します、適切な間隔はフレームのジオメトリー、カセットのサイズ、ギアドロップのジオメトリーによって異なります。OSPWの取付け後にはギアドロップに特に注意し、正しく位置を合わせてください。
不明な点がある場合は、プロメカニックに調整を依頼しましょう。元から装着されていたShimano UltegraまたはDura-Aceのカセット(最大32/11T)を使用しましょう。

スプリングテンション

初期設定では、Lの隣の穴(2番目に低いテンション位置)を選びます。この位置は、テンションや抵抗の低さと変速動作のバランスに最も優れています。
変速のレスポンスが遅すぎる、およびまたは荒れた路面(石畳、グラベル、シクロクロスなど)を走る場合は、スプリングテンションをさらに高めます。

推奨チェーン長

カセットを11-23Tから11-32Tまでとした場合
53/39Tのチェーンリングには114個
50/34Tのチェーンリングには112個
のリンクのチェーンを使用します。